

ミドルクライシス③ミドルの「三方なし」

企業経営漫談士 岡野実空

「三方よし」は近江商人の心得で、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の3つ。但し実は戦後の研究者が言い出したものです。団塊を含む高度経済成長期のイケイケ世代が涙した映画、「てんびんの詩」は、恐らくこの言葉の普及に大きく貢献したと思います。

今回はこれをもじった、「自分なし」「他人なし」「世間なし」の「三方なし」ですが、私も含む昭和の先輩を反面教師とした、ミドルの皆さんへの警告です。謹んでお聞きください。

その1: 自分なし

24 時間闘っていた？団塊世代のリタイアにより、大量に発生したのが「ワシも族」。別名「ワシ男」ともいいますが、組織を離れ、上からの指示命令が無くなって、一切何をしたいかわからない。そのため、家庭の主にべったりと纏わりつき、奥方の行くところには、必ず「ワシも！」とついてくる人種です。また、さすがにそれもまずいと気づき、ときどき学友や会社の元同僚とつるんで居酒屋巡りなどをするものの、自らの企画力はゼロ。幹事のおかげでようやく動けるというのが実態。すなわち、こちらも「ワシも」！！

現役の皆さん、決してこの類の人間にならないよう、いまから趣味などのご準備を！！

その2: 他人なし

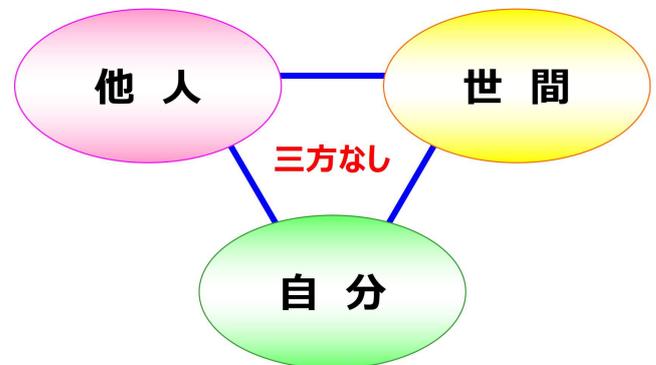
「ワシも族」の大量発生により、いま市中の景色は一変。以前は全く見かけなかった図書館、美術館、映画館などに准高齢者が押し寄せています。(現役のときにこそ感性を磨くべきなのに、もう遅い！)またそれに伴い、一部の心理学者などが以前から危惧していた光景を、しばしば目撃するようになりました。

その典型は、生産活動の停止がもたらすフラストレーションによる「攻撃性」の増大。元々生産的なこともしていなかった現役時代の不完全燃焼の腹いせに、少々ことで小売業やサービス業の社員に当り散らし、周囲を不快にするシーンは日常茶飯事です。(会社に閉じこもっていると知らない？)

組織内の上下関係にどっぷりと浸かり、これまでそれだけにすがって生きてきたために、一般社会で必要なヨコの関係に全く適応できない人間の悲劇です。「上下の眼鏡」では、対等の立場にいる「他人」が全く見えません。

現役の皆さん、仕事を離れたネットワークをいまから築きましょう。「強い」はずの仕事上のつながりが、実は最も「弱い」関係であることを思い知るの、大半の方が退職してからです。

E-17 ミドルクライシス③三方なし



その3: 世間なし

すでに述べてきたように、「企業人」だけで年を重ねてきた人間は、「家庭」や「地域」など「社会人」として必要な他の視野をもちません。食事などの関係で、家庭では仕方なく服従を強いられるので、地域などでその鬱憤を晴らそうとしますが、「上から目線」が蟹感を買い、もちろん居場所を確保することはできません。またそれに気づいても、プライドが邪魔して変わることができないのです。本当にお気の毒です。

皆さんは「職業人」「家庭人」そして「社会人」という3つの立場をもちます。「企業人」という中途半端な職業人の顔しかもたなかった諸先輩を他山の石とし、「自分よし」「他人よし」「世間よし」のよい人生を送るための準備をいまから怠りなく！そのネタは、自分が社会人になるまで夢中になったモノやコト、また社会人になってから、利益を度外視してでもやりたいと思う活動にあります。それにはドラッカーのいう通り、「時間」の分析から。将来やりたいことの準備は、まずいまの「習慣」の変更から始まります。

2019年8月17日(初出平成29年 3月13日) 実空